

「黄色いハンカチ作戦in雄琴自治会」

～我が家は大丈夫です！～

(1) 大地震が起こった！

そんな時は、まずは自分で自分の身を守る公道を折ることが重要です。（自助）

自分は無事だったけれど、家族が家具などの下敷きになり、自分だけでは助けられない！

そんな時は、ご近所や自治会の手助けが必要になります。（共助）

（行政の支援（公助）は、すぐに来ないことが想定されます。

(2) 「黄色いハンカチ作戦」とは？

「共助」や「公助」を行うためには、その前に”どこに助けの必要な人がいるのか？”と安否確認をすることが必要です。特に人命救助は ”時間” が勝負です。

そんなとき、無事であることが一目でわかれば、いち早く支援や救助をすることができます。

そこで考え出されたのが「黄色いハンカチ作戦」で、大地震など大規模な災害が発生した際、救助等が必要でない場合に黄色いハンカチなどを玄関先に掲げることにより、無事である世帯を一目で認識できるようにする地域ん取組です。

(3) 基本ルール

(1) 震度5以上の地震が発生した時に実施する。

(2) 家族全員が無事で救助や支援が必要でない場合は、黄色いハンカチを玄関ドアや郵便ポストなど分かり易い場所に掲げ、隣近所に無事で救助や支援が必要ないことを知らせる。

（黄色いハンカチがない場合は、黄色いタオルや衣類などで代用すること可）

(3) 地震発生後、最低三日間は掲げておく。

(4) 自主防災組織での対応

震度5以上の地震が発生したときは、自主防災組織の本部を自治会館に設けます。

本部設置後は、速やかに各組長さんから自治会員の皆さんの安否等の情報を収集するとともに、地域の被害状況などの確認を行います。